

大阪・関西万博

働きかけ TDM の進め方

2024 年 8 月

2025 年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議

-目次-

1.	目的.....	2
2.	TDMの必要性と目標	5
1)	必要性.....	5
2)	目標.....	6
3.	推進体制	8
4.	TDMの取組方針.....	9
1)	エリアや期間によるメリハリ付け	9
2)	TDM取組メニュー	11
3)	働きかけの対象業種と取組メニュー.....	14
5.	働きかけの推進	17
1)	企業への働きかけ.....	17
2)	府県市民等への働きかけ.....	21
6.	TDMトライアルの実施.....	22
7.	万博開催期間中の TDM 実施	23

1. 目的

- 円滑な来場者輸送と都市活動の両立
- 交通の円滑化につながる行動変容の取り組み

- 2025日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）は、2025年4月13日から同年10月13日までの184日間、大阪市内の臨海部の海に囲まれた人工島の「夢洲」で開催されます。
- 大阪・関西万博では、1日あたり約22.7万人^{注1}、会期中約2,820万人の来場者が想定されています。
- 万博会場への主要なアクセスルートは、「①Osaka Metro 中央線（鉄道）」「②JR 桜島線（鉄道+駅シャトルバス）」「③淀川左岸線（2期）（新大阪駅、大阪駅等発の駅シャトルバス）」の3つのルートがあります。

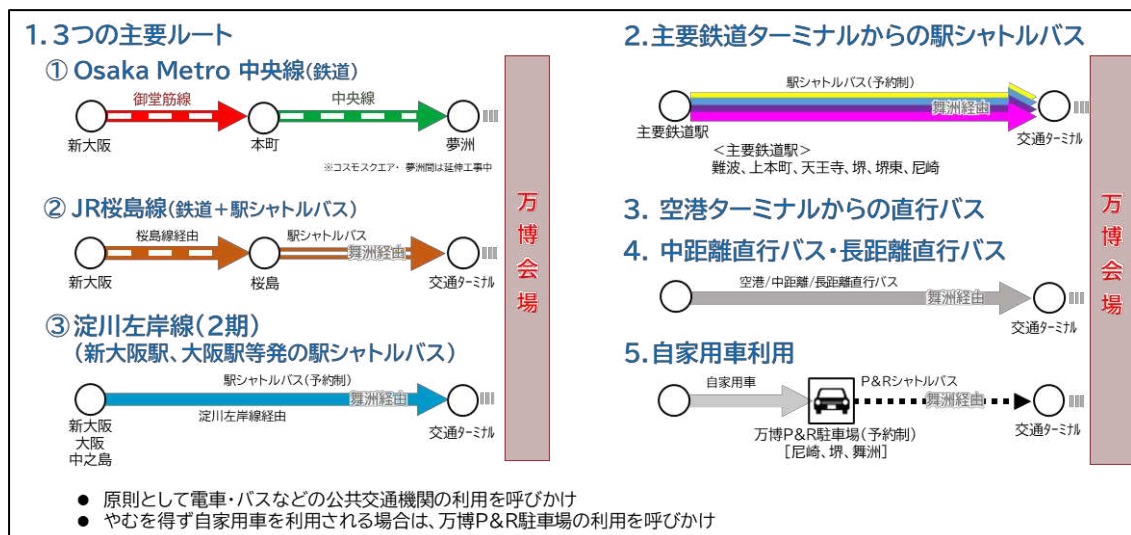


図1 会場アクセス概要

- 万博会期中における会場が混雑する期間として、修学旅行シーズンの6月や駆け込み需要のある8月のお盆以降などが想定されています。
- 特に、会期終盤の10月の約2週間は、非常に混雑すると想定されています。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計 上段:日数 下段:割合
	●開幕(4/13) GW				夏休	お盆	●敬老の日 ●秋分の日	
会場混雑								
非常に混雑 約20万人/日以上								8日 (7%)
混雑 約14万人/日以上								51日 (44%)
やや混雑 約14万人/日未満		※1		※2				56日 (49%)
※ 土日祝及びゴールデンウィークとお盆期間に相当する日数を除いた平日のみで整理								合計 上段:日数 下段:割合
<p><予測の考え方></p> <p>※1(開幕~5月) 会期前半は過去の万博傾向から、来場者が多くないと想定</p> <p>※2(7月~お盆) 修学旅行の需要が一段落し、暑い時期ということもあり、一般の来場者需要も減少すると想定</p>								
[2025年日本国際博覧会来場者輸送対策協議会における「大阪・関西万博 来場者輸送具体方針(アクションプラン)第3版(2023年11月)」の内容を踏まえ作成]								

図2 万博会期中の会場での混雑予測

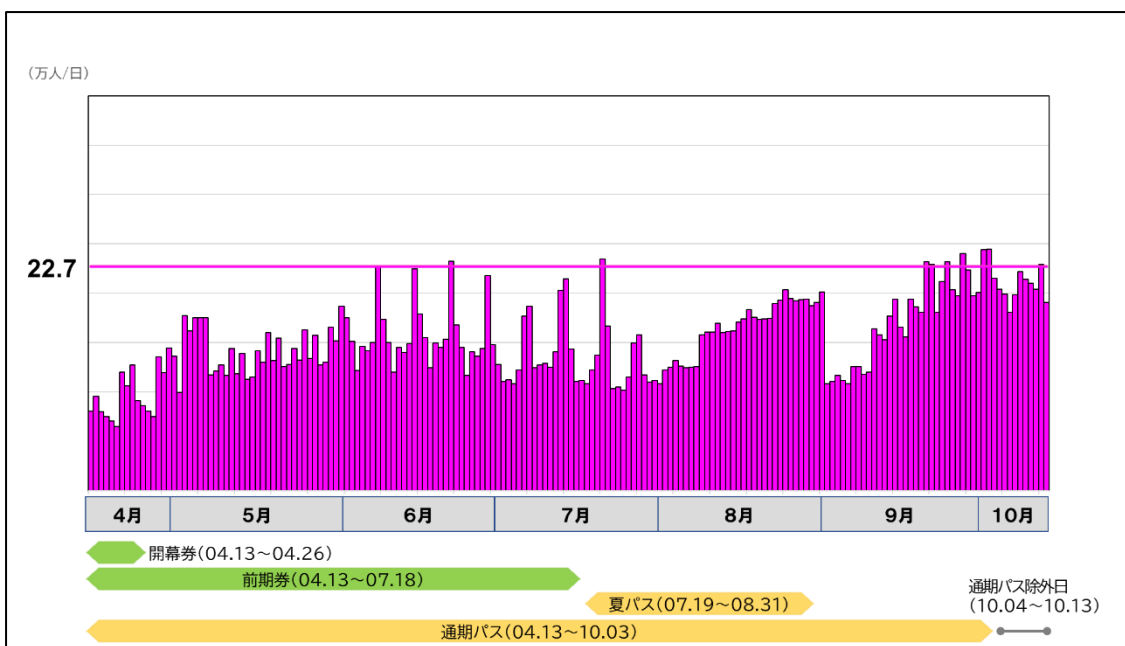


図3 日来場者数の予測(チケットコントロールによる平準化後)

- 交通の円滑化を図るため、在宅勤務や時差出勤、混雑予測箇所の迂回など、住民や企業等の交通にあたっての行動変容を促す取り組みであるTDM^{注2}について、広く協力を働きかけ、円滑な
- 来場者輸送と都市活動の両立を目指します。

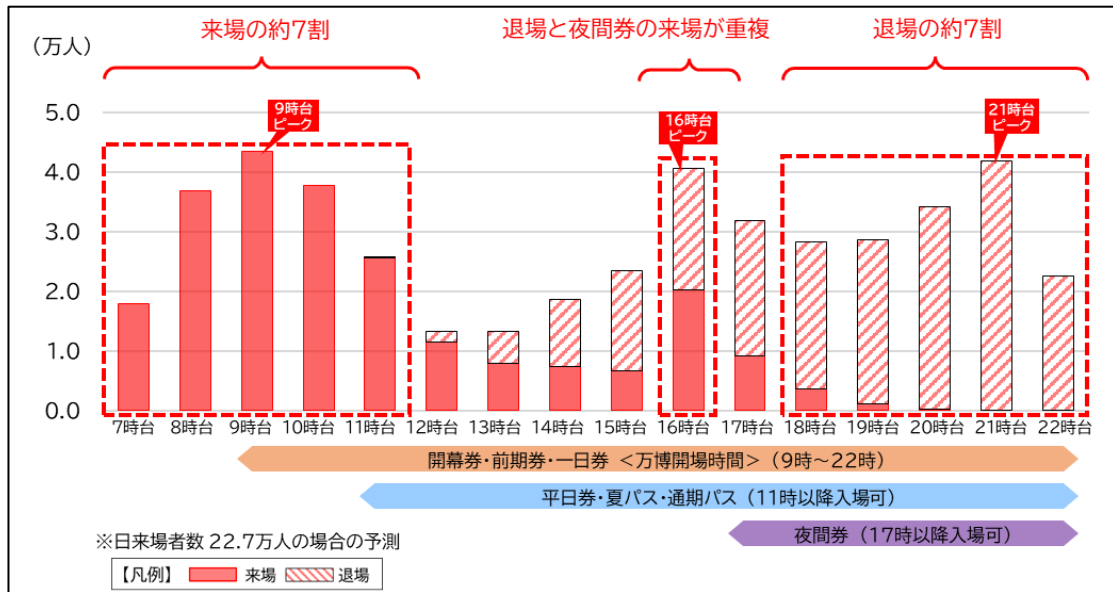


図4 1日の時間帯別の来退場の予測 (22.7万人/日)

注1 日來場者数の上位1割平均

注2 TDM (Transportation Demand Management : 交通需要マネジメント)

鉄道や道路利用者による交通発生源の調整や時間・経路の変更など、交通行動の変更を促して、発生交通量の抑制や集中の平準化など、「交通需要の調整」を行うことにより、交通混雑を緩和していく取組

2. TDMの必要性と目標

1) 必要性

- 交通混雑の取組を実施しない場合、一部の鉄道や道路で混雑が発生

ア) 鉄道

- Osaka Metro 中央線の混雑が約 2 倍に増加 等
 - ・ 平日 8 時から 10 時台に弁天町から朝潮橋間での混雑率
〔(現在) 約 70% → (取組なし) 約 140%〕

イ) 道路

- 阪神高速 13 号東大阪線で約 2 k m、11 号池田線で約 0.3 k m 渋滞長が延伸する見込み 等
〔東大阪線 (現在) 5 k m → (取組なし) 7 k m〕

- これらの混雑が、来場者輸送はもとより、企業活動等へも影響を与えることから、TDMの取り組みが必要

- 鉄道の増便や、道路の交通容量拡大等の来場者輸送での対策を実施しても、TDMの取り組みを行わなければ、鉄道の混雑や、阪神高速の交通状況の悪化等、混雑の発生が想定されています。

2) 目標

ア) 鉄道

- Osaka Metro 中央線で混雑率約 120%を目指す

イ) 道路

- 阪神高速道路で渋滞長が通常時の最大を超えないことを目指す

- 円滑な来場者輸送と都市活動を両立させるため、主に以下の取組を行います。

ア) 鉄道

- 来場者が集中する日などにおいて、万博交通の集中が想定される Osaka Metro 中央線と御堂筋線の利用者へ、時差出勤や在宅勤務など、混雑区間の移動量や混雑時間帯の回避を働きかけることで、混雑の緩和を図ります。
- また、比較的混雑が少ない四つ橋線や堺筋線、谷町線等の並行路線及び住之江公園経由でのニュートラム利用を促すことで、混雑区間を避けたルート変更を働きかけます。

イ) 道路

- 阪神高速 11 号池田線や 13 号東大阪線等から、近畿自動車道や阪神高速 6 号大和川線等の別路線の利用を促すことで、混雑区間を避けたルート変更を働きかけます。

- 以上の取り組みにより、鉄道では、万博会場に直接乗り入れる唯一の路線となる Osaka Metro 中央線において、より快適に移動可能となるよう、混雑率約 120%の達成を目指します。
- また、道路では、阪神高速道路における渋滞長について、万博交通によりさらに伸びることがないことを目指します。

[2025年日本国際博覧会来場者輸送対策協議会における「大阪・関西万博来場者輸送対策協議会（アクションプラン）第4版」（2024年7月）より]

3. 推進体制

- TDMの推進には、住民や企業等のご理解・ご協力に基づく、自主的な参加を促すための合意形成が必要
- 住民や企業等の交通にあたっての行動変容を促す取り組みを関係者が一体となって検討・調整し、広く協力を働きかけ

- 2022年12月に、「2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議（以下「TDM推進会議」といいます。）」を設置しました。
- TDM推進会議は、会長に大阪府知事、会長代行に大阪市長、副会長に2025年日本国際博覧会協会事務総長、委員に経済3団体の代表、協力委員に国関係機関の局長や鉄道及びバス協会の会長で構成しています。
- TDM推進のための体制は、働きかける側のみでなく、住民や企業等、働きかけられる側のご理解・ご協力に基づく、自主的な参画が必要となります。
- TDM推進会議において、交通にあたっての行動変容を促す取り組みを検討・調整し、住民や企業等へ広く協力の働きかけを行い、合意形成を経て、TDMを推進する体制を構築します。

4. TDMの取組方針

1) エリアや期間によるメリハリ付け

- 来場者等により、人流・物流が集中し、混雑が予想される会場周辺、駅シャトルバス発着地周辺地域等のエリアについて、重点エリア・主要エリアと位置づけ、メリハリを付けた取組を実施
- 重点エリア・主要エリア等のエリアの特性に応じた、ご協力の呼びかけを実施

- 来場者等により、人流・物流が集中し、混雑が予想される会場周辺、駅シャトルバス発着地周辺地域の企業等について、TDMを取り組んでもらうことにより、大きな効果があると想定しています。
- これら地域の関係機関・企業等に対し、重点的にTDM実施への協力を求める等、地域ごとに取組のメリハリを付けた取組を実施実施します。
- 会場周辺や Osaka Metro 中央線の沿線を「重点エリア」、また、駅シャトルバスが発着する主要駅周辺を「主要エリア」と位置づけます。
- また、その他のエリアも含めて、各エリアの特性に応じた呼びかけや取り組みの内容、実施期間にメリハリを付け、企業等へご協力の働きかけを実施します。



図5 重点エリア・主要エリア箇所図

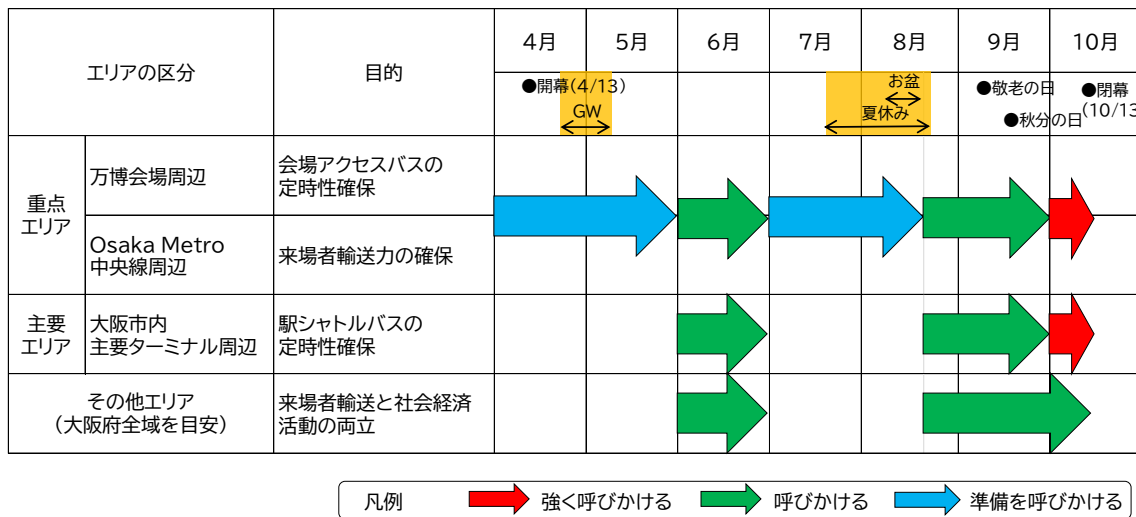


図6 エリアの特性に応じた協力の働きかけ

2) TDM取組メニュー

- 交通混雑を緩和する取組みを企業等へ働きかけ
- 具体施策については、少しでも多くの企業等に取り組んでいただけるよう、働きかけを実施

- 来場者が集中する日などにおいて、交通混雑を緩和する取組みについて、企業等へ協力を働きかけます。

ア) 移動量・配送量を削減する取組

- ・ 万博会場が混雑する期間において、会場周辺の企業等に、在宅勤務やまとめて納品等にご協力いただき、移動量や配送量を削減することで、混雑の緩和を目指します。

イ) 混雑時期・時間帯を回避する取組

- ・ 万博会場が混雑する時期や来退場のピーク時間帯について、時差出勤や納品時期の変更等にご協力いただき、これらの時期・時間帯を回避することで、混雑の緩和を目指します。

ウ) 混雑場所・ルートを回避する取組

- ・ Osaka Metro 中央線や阪神高速道路等の混雑区間について、迂回通勤や配送ルートの変更等にご協力いただき、これらの混雑区間を回避することで、混雑の緩和を目指します。

表1 主なTDMメニュー

取組効果	主な取組メニュー
移動量・配送量を削減	テレワーク・在宅勤務
	オンライン会議の推進
	まとめて納品
	共同配送
	イベント開催場所・時期の変更
混雑時期・時間帯を回避	時差出勤、フレックスタイム
	商談・打合せ時間の調整
	リードタイム（納品時期・時間）の変更
	配送時間の変更
混雑場所・ルートを回避	通勤経路の変更（混雑区間を迂回）
	配送経路の変更
	影響の低いエリアにある倉庫の活用

- 具体施策については、企業に検討いただくに際して、少しでも多くの企業に、TDMの実施に協力いただけるよう、働きかけを行います。

ア) 物流にかかる取組

- 共同・混載配送や納品時期の調整など配送方法の効率化やオフピーク時へのシフト等の取組については、企業間の連携が必要であることから、TDMの実施に協力いただけるよう、働きかけを行います。

イ) 路上工事の抑制

- 来場者を輸送または利用を推奨する路線や、TDMで迂回誘導を呼びかける路線で工事規制を伴う路上工事やその路線で工事車両が通行する見込みがある工事などについては、工事調整をしていただく必要があります。

- 万博期間中のシャトルバス運行ルートにおける路上工事縮減に向け、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会・バス事業者の連名で、大阪府内の道路管理者や占用企業者等で構成されている会議体に要望しました。

ウ)会場周辺イベントとの調整

- 万博会場周辺の咲洲や舞洲、天保山、桜島周辺では、万博会期中に各種イベントの開催が計画、検討されています。
- これらの周辺イベントと万博が共存できる方法について、万博交通による交通混雑情報を示しながら、周辺イベントの来場ルート変更などの対応について、調整を行います。

3) 働きかけの対象業種と取組メニュー

- TDMの取組については、企業の業種ごとに協力頂ける取組メニューが異なることから、産業分類に応じた働きかけ対象メニューを整理
- これらのメニューを踏まえ、企業への働きかけを実施

- TDMの取組については、企業の業種ごとに協力頂ける取組メニューが異なることが考えられます。
- そこで、大阪市の産業統計情報を踏まえ、大阪市域全体や夢洲・舞洲などの臨海部の4区、特に来場者の利用が想定されるOsaka Metro 中央線沿線を分析した結果、各エリアで、産業別の事業所数分布を整理しました。
- また、取組メニューは、業種ごとに、実施に協力いただけるメニューに違いがあることから、個別にヒアリング等を実施し、その結果、業種ごとに協力いただける見込みがある取組を整理しました。
- 各取組メニューと業種の関係整理図を踏まえ、継続して企業への働きかけを行います。

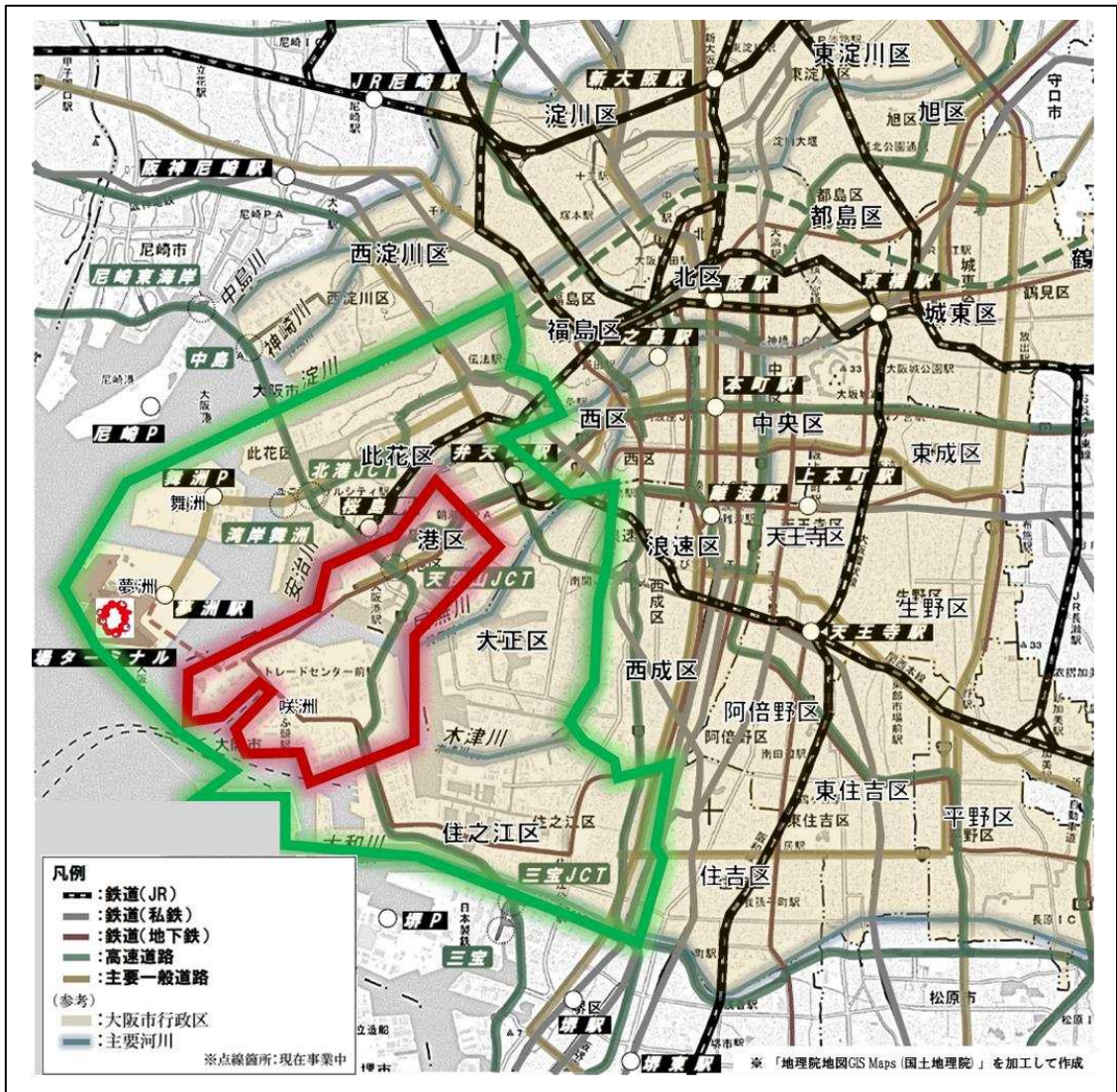
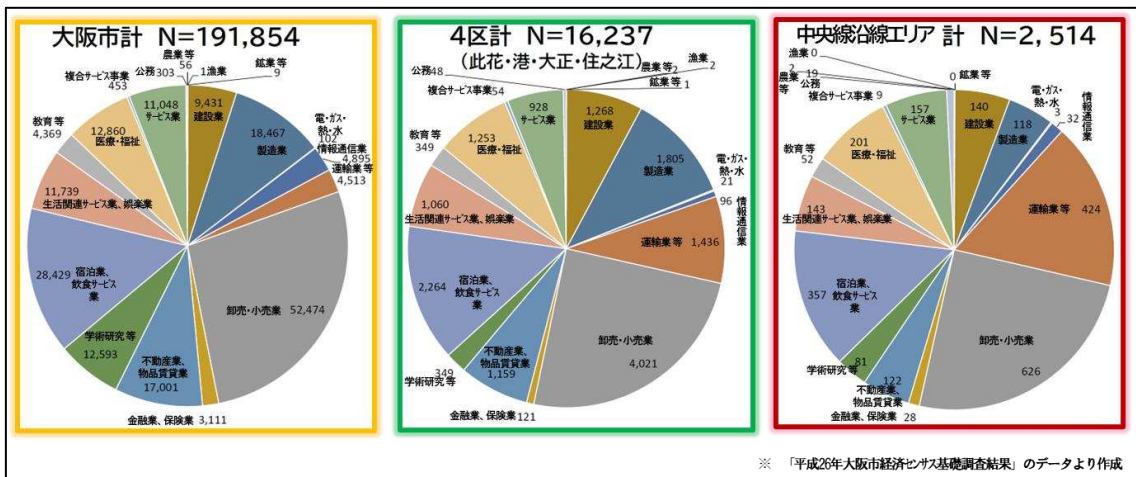


図7 産業別事業所数の分析に伴う区域図

表2 区域ごと産業別事業所数



※ 「平成26年大阪市経済セサス基礎調査結果」のデータより作成

TDM各施策と業種の関係整理図

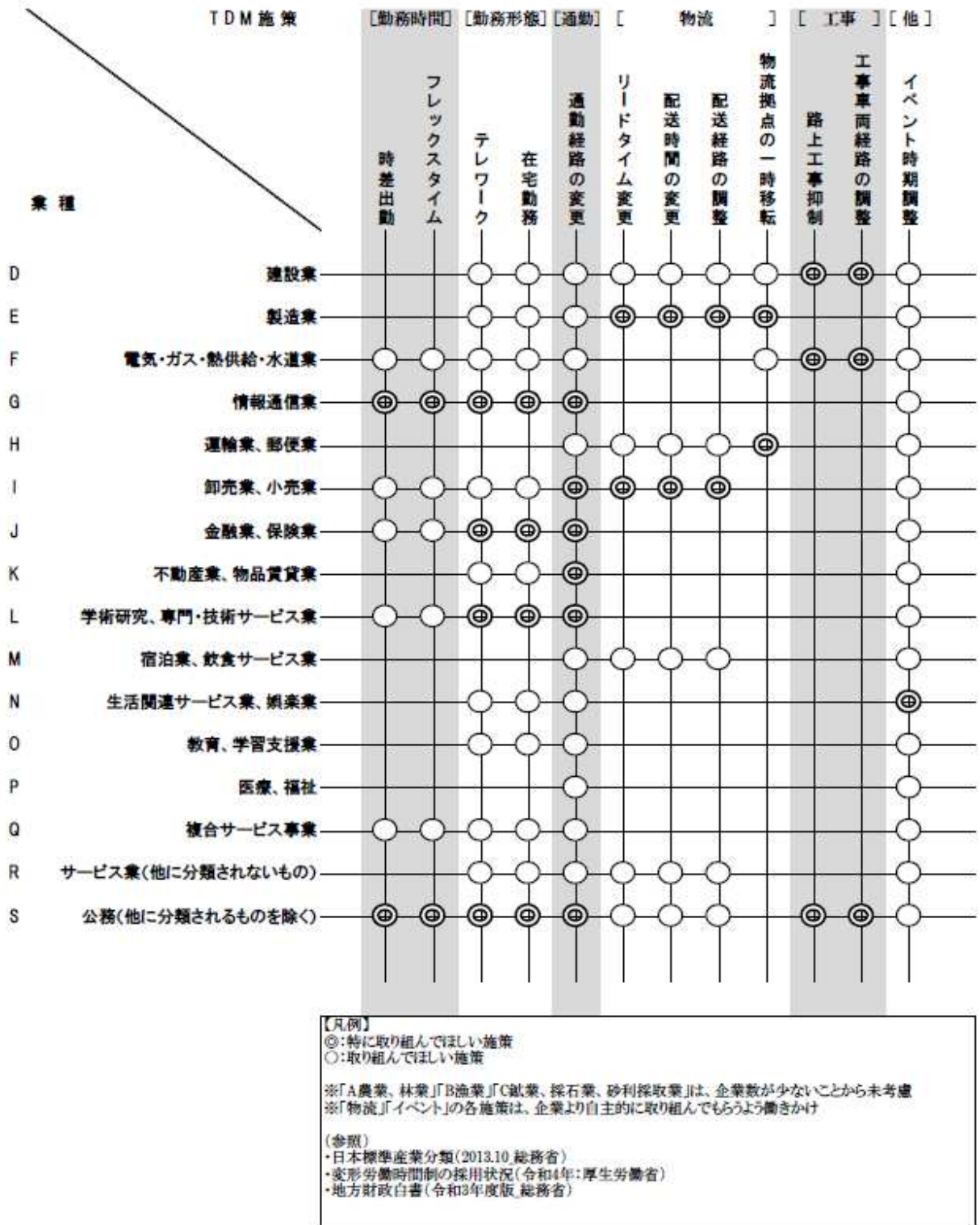


図8 TDM各取組メニューと業種の関係整理図(案)

5. 働きかけの推進

1) 企業への働きかけ

- 企業が TDM に取組むためには、事前に計画を立てて進めていただく必要があることから、早い時期から TDM の必要性を丁寧に説明するなど働きかけを行う
- ア)リーフレットを用いた広報の実施
- イ)「万博 TDM パートナー」登録企業の募集
- ウ)「エリア」と「業種」に応じた効果的な取組の実施
- エ)先導的事例の公表・発信

ア)リーフレットを用いた広報の実施

- 企業ヒアリングの結果、交通混雑の影響を受ける企業は TDM に関心をお持ちで、何に取組むべきか検討するため、万博開催期間中の交通状況を知りたいとのニーズが高いことが分かりました。
- そのため、万博開催期間中の交通状況の理解促進や、TDM の取組をご検討いただくきっかけとして、リーフレットを作成し周知を実施します。

イ)「万博 TDM パートナー」登録企業の募集

- 2024 年 2 月から、万博期間中の一般交通の抑制や分散、平準化の取組にご協力していただく企業・団体を「万博 TDM パートナー」として、1 万事業所を目標に募集を実施します。

ウ)「エリア」と「業種」に応じた効果的な取組の実施

- 企業への効果的な働きかけを行うため、「エリア」と「業種」に応じた働きかけを実施します。

表3 エリア毎の働きかけ内容

エリア	働きかけ内容
重点エリア	万博会場周辺、及び、Osaka Metro 中央線周辺の企業を対象に、資料配布やオンライン説明会の開催
	エリアの協議会・団体を通じて協力依頼
	区広報誌への掲載、及び、説明会の開催
	大阪メトロ主要駅、区役所へのチラシ配架
	企業・団体へ直接協力を依頼
主要エリア	大阪メトロ主要駅、区役所へのチラシ配架
	まちづくり推進団体等と連携し働きかけ
その他エリア	Web サイトや SNS 等、インターネット媒体を活用し、広域に働きかけ
	府内の関係団体等を通じて情報提供
	TDM推進会議の各団体が有する行事の場を活用した周知・説明

表4 業種毎の働きかけ内容

業種	働きかけ内容
経済団体	会員企業への働きかけ
	会員企業向けの説明会の開催
	企業・団体へ直接協力を依頼
業界	関係する業界団体への周知・説明
	業界向けのイベント等を活用した周知

エ) 先導的事例の公表・発信

- 重点的に TDM 実施への協力を求めるエリアの企業・事業所を中心に、人流や物流の取組について個別にヒアリングを実施し、協力いただける取組など、先進的・先導的な取組事例を発信する等により、多くの企業に協力いただける環境を整えます。

Hitz 日立造船株式会社

Hitachi Zosen

所在地: 大阪市住之江区南港北1丁目7番89号
最寄り駅: コスモスクエア駅
本社勤務者数: 約1,800名

万博開催期間中の交通混雑緩和に向けた日立造船の取り組み(TDM)について

課題 本社(大阪市住之江区)のある咲洲は、万博会場までの鉄道ルート上にある

大阪・関西万博開催期間中、ピーク予想の時期、時間帯の情報に対して
本社勤務者 約1,800名を対象に、以下のとおり取り組む

1. ヒトの流れに関する取り組み	2. モノの流れに関する取り組み
<p>在宅勤務の活用</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 在宅勤務は週4回可能(現行制度)▶ リモートワークの設定、出勤率の設定等を検討中 <p>フレックス勤務の活用</p> <ul style="list-style-type: none">▶ オフピーク出勤(時差出勤)で混雑緩和 <p>Web会議の活用</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 各事業所から本社への出張は極力控え、オンライン会議を活用	<p>営業車(約50台)の使用頻度削減、時間の変更</p> <p>宅配便の発送数削減、日時に余裕を持たせた利用</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 宅配便の配送・集荷回数の削減(18回/日→10回/日以下へ)▶ その他車両(廃棄物収集車、自販機・売店等の配送車など)の半減

図9 先進的・先導的な取組事例①

ミズノ株式会社

2025年大阪・関西万博開催期間中の交通緩和の取り組み

<会社概要>
所在地 大阪市住之江区南港北1-12-35
最寄り駅 コスモスクエア トレードセンター前
大阪本社勤務者数 約1,200名

ヒトの流れに対する取組

テレワーク勤務

ワークライフマネジメント

出社勤務

- テレワーク制度の確立と浸透
コロナ禍に試行していたテレワークを制度化し継続して実施
出社率50~60%を継続キープ
- フレックス制度による時差出勤
コアタイムを設定しないフレックス制度の実施
1時間みの勤務も可能なスーパーフレックス
- 迂回通勤経路アナウンス
最も混雑が予想される期間については
迂回経路を社内インフォメーションにて掲示し、混雑回避を誘導
- 大型イベント廃止、自社展示受注会の人流制限
過去6月に実施していたインテックス大阪での大規模展示受注会の中止を継続
自社での展示受注会は事前予約により来社人数を制限

・通勤時間を削減できるので勤務開始前・終了後の時間を有効活用できる

・柔軟な働き方が可能なため、育児・介護等家庭の事情に対応できる

・時間単位年休の使用やフレックスタイム制度を活用できるが、テレワークほどの柔軟性はない

・オンオフの切り替えがしやすい

インテックス大阪で開催していた新製品展示会を自社開催でコンパクトに。来社時間管理により混雑を避ける。

図 10 先進的・先導的な取組事例②

弊社は大阪・関西万博の円滑な開催に向け、TDMに精一杯のご協力をいたします。

1

社内取組

人流への取組

- ◆ 在宅勤務の推進 : 事務職員のテレワーク比率上昇。
- ◆ 時差出勤の推進 : シフトコントロールによるピークタイムの回避。
- ◆ 諸会議のリモート化推進及び会議数の削減 : コロナ禍に導入したZOOM活用範囲を広げる。
- ◆ 大阪市内営業時の社用車利用の抑制 : セールスルートを効率化し公共交通機関を最大限利用。
- ◆ 大阪・関西万博のコア交通経路利用の抑制 : 中央線、御堂筋線通勤者の別ルート利用。

2

ゲストへ向けた取組

物流への取組

- ◆ 設備工事の抑制 : 設備更新及び改修の頻度を低減。
- ◆ 納品の工夫 : 混雑時間帯及び混雑コースの回避。一括発注による納品回数の抑制。
- ◆ エコプランの推進 : 客室のクリーニング回数を減らす取組の実施。アメニティ発注の回数抑制。

3

企業としての取組

企業としての取組

- ◆ 業界への呼びかけ : ホテル協会(大阪兵庫支部)加盟ホテルに対しTDMへの協力を呼びかけ。
- ◆ 取引先への呼びかけ : 協力企業、テナント企業に対しTDMへの協力を呼びかけ。

図 11 先進的・先導的な取組事例③

20

2) 府県市民等への働きかけ

○ 万博開幕 100 日前には、府県市民の方々への働きかけを開始

- 府県市民等への働きかけについては、東京オリンピック・パラリンピックの事例を参考として、開幕の 100 日前を目途に開始します。
- 開幕後は、交通混雑の予測・実態に応じて効果的に働きかけます。
- 働きかけについては、混雑想定区間の鉄道や道路利用者を中心に、交通事業者や道路管理者等と連携し、効果的な広報手段を用いた周知を実施します。

6. TDM トライアルの実施

- TDM 取組の課題抽出、及び、取組による交通量低減の有意性を確認することを目的として、TDM トライアルを実施
- 最も混雑が想定される会期終盤と同時期の 1 年前に期間を設定

- TDM トライアルは、最も混雑が想定される会期終盤と同時期の 1 年前となる、2024 年 9 月 30 日～10 月 4 日に実施します。
- TDM パートナー登録企業の皆様には、万博開催期間中の最も混雑する期間を見据え、テレワーク、時差出勤、混雑経路の迂回などの取組をお願いします。
- TDM パートナー登録企業に加え、TDM 推進会議の構成団体や国出先機関等が TDM トライアルを実施します。
- 多くの企業の方に TDM トライアルを認知いただけるよう、ポスターやチラシを作成し、効果的な広報を行います。
- 万博 TDM パートナー登録企業等に TDM トライアルのご協力いただき、課題を抽出するなど、その結果を分析・検証するとともに、公表・発信することで、万博開催に向けての準備を行います。

7. 万博開催期間中の TDM 実施

○ 開催期間中は 6 月、8 月のお盆以降から 9 月まで TDM の実施を「呼びかけ」、会期終盤の 10 月は TDM の実施を「強く呼びかける」

○ 万博会場の混雑が予測される 2025 年 6 月に実施する TDM の呼びかけの結果の検証を行い、10 月の会期終盤の最混雑期「強く呼びかける」に備えます。

